

かけはし

vol.103
2026.7



移転オープニングセレモニー ～IIA Welcome Party～

i-ビル3F 市民活動支援センターおよびシビックテラス

5月30日

今年度から尾張一宮駅直結のi-ビルに移転した一宮市国際交流協会の移転オープニングセレモニーが開催されました。会場では、日本語教室、翻訳・通訳、国際交流イベントなどの活動紹介に加え、会員制度やボランティア制度の説明が行われました。



民族衣装の試着やイタリア・ニュージーランドのクラフト体験コーナーには子どもたちが集まり、会場は微笑みに包まれました。私が話をした方だけでもアジア各国、イタリア、ニュージーランドなど、さまざまな国にゆかりのある人々の交流のひとときでした。



国際交流という少しハードルが高く感じられるかもしれませんが、ですが世代を超えて実際に海外から一宮に移り住んでいける人や、一宮市民で海外に興味のある人から話を聞いてみると、新たな発見があることがこの活動の魅力



力だとあらためて感じました。

新しい事務局スタッフやボランティアも加わり、協会は新たなスタートを切りました。駅直結で立ち寄りやすくなった今は、国際交流や多文化共生に興味のある人が訪れてみる良いタイミングかもしれません。i-ビルの協会に一步踏み入れて挨拶してみると、その時あなたの心に新鮮な風が吹くかもしれませんよ！（かんざき）



会員を募集しています

一宮市国際交流協会では、国際交流と多文化共生の推進にあたり、地域の国際化に対応した活動を広げていきたいと考えています。当協会の活動にご参加・ご支援をいただける方、ぜひご入会ください。

年会費

個人会員	3,000円
法人・団体会員	20,000円

※10月～3月入会の場合、初年度は半額

入会申し込みは
こちらから！



会員特典	個人会員	①協会事業の優待・優先参加 ②会員向け交流会への参加 ③機関紙「かけはし」の送付
	法人・団体会員	上記①～③に加え、 ④通訳派遣 ⑤外国人向け講座の実施

共催、後援、広報協力等のご相談も受け付けています。詳細は事務局までお問い合わせください。

VEGA日本語学校視察

VEGA 日本語学校 3月3日

一宮市で初めて外国人向け日本語学校として法務省から認可された「VEGA日本語学校(以下、VEGA)」の視察へ「日本語ひろば(いちのみや、びさい、ジュニア)」のボランティア計10人が行ってきました。

VEGAは2024年10月に開校し、視察時点でその学生数は72人。出身国はネパールがほとんどで、そのほかミャンマーとベトナムでした。VEGAという学校名は、一宮市が七夕まつりで有名であることと、学生たちも一等星の織姫星「ベガ」のように輝いてほしい、という願いを込めてつけられたそうです。

ボランティアは5人ずつに分かれ、初級クラスと中級クラスの授業を視察しました。教室へ入ると学生たちから「こんにちはー」と明るい挨拶が飛んできました。初級クラスの授業は動詞の活用と漢字の部首についてでした。イラストを使いわかりやすく教え、学生が退屈しないようにみんなの話題を入れながら楽しく授業を進めら

れていました。中級クラスでは学生がすでに学んだ語彙や文法を活用できるように積極的に使わせたり、日本語能力試験に向けての指導をされていました。

授業の最後には学生が4人ずつ座れるようにテーブルを分け、そこにボランティアがひとりずつ入り、自己紹介などフリートークを楽しみました。はにかみながらも自分たちのことを一生懸命話している学生たちの笑顔がとても印象的でした。

ボランティアたちは短時間ながら、今回の視察で日本語教育のプロの教え方を直接見ることができ、とても参考になったようです。これからもこのような機会が増えるといいですね。

(katsu)



参加した協会ボランティアの感想

この度は授業見学会をありがとうございました。すぐに実践できるコツと、教えるときの心がけを学ぶことができました。

心に残ったのは、先生が教科書から実生活につながる部分を取り出して、学生と楽しそうに会話している姿です。

また、教える事柄を部分に分けて、知っている部分を確認させる技術、教材内容を段階分けして力の入れ加減を変えさせる助言は魅力的でした。なにより、力も意欲も異なる学生の自習を支える方法には感動しました。

学びの多い幸せな見学会でした。

イタリア料理セミナー ～Mamma Mia! 手作りPasta&Tiramisu教室～

尾西生涯学習センター 料理実習室 2月23日

国際交流員のキアラさんが講師となり開催されました。メニューはキアラさんの地元トレビゾ市が発祥のティラミス、そして家庭料理のパスタでした。



受講者24人は6つのチームに分かれ、一宮市国際交流協会クッキング班のボランティアが各チームのサポートに入りました。

ひとつ目はティラミス作りですが、最初にエスプレッソをつくります。次にマスカルポーネチーズ、卵黄、生クリームなどを混ぜ、クリームをつくります。アルミ型にビスケット、エスプレッソ、クリームを層状に重ね、冷蔵庫で冷やしたあとココアパウダーを振りかけたら完成です。ふたつ目のパスタは小麦粉と卵と塩をこねて生地をつくります。



「イタリアの食文化あれこれクイズ」が出ました。パスタの種類の数、イタリア人が1週間にパスタを食べる頻度など。答えが当たったり外れたりみんなで大笑いでした。

さて寝かせておいた生地を麺棒で伸ばし約5ミリ幅に切るのですが、柔らかくて粘着性があるのでみんなかなり苦労していました。

さあ試食の時間です。キアラさんの「マンジャーモ! ブオナペチート(では食べましょう! いただきます)」の合図でパスタを頬張り、デザートはティラミスを味わいました。みなさん、とてもおいしい笑顔でした。

キアラさんのイタリア料理セミナーは今回が4回目だそうです。今までやりたかった地元発祥のティラミス作りができて、たいへん満足そうでした。(katsu)



クッキングボランティア体験談

西 亮子 さん

国際交流員キアラさんのイタリア料理セミナー、今回はパスタとティラミスを作りました。

パスタは小麦粉と卵を手ごねして伸ばす本格的なもの。2種類のソースでいただきました。ティラミスも香り高いエスプレッソを使用し、自分でこんなに美味しくできるなんて感動しました。

イタリア料理は堅苦しくなく、分量も適当で構

わない、余り物のできるエコな料理とお聞きし、料理にも快活でおおらかな気質を感じられました。参加者の方々もスムーズに作業が進み、和やかなムードで試食も好評でした。



イタリア食文化クイズ①

パスタは何種類あるでしょう?

A:300種類 B:100種類 C:1000種類

(答えは裏表紙!)

名古屋大学短期受入プログラム ホームステイ

岩田さんファミリー 2月6日～2月8日

2月に3日間、モンゴルからの留学生サロールさんがホームステイに来てくれました。

メインは日本に来たら一番やってみたくて聞いていたいちご狩りです。他には子どもと漢字の書き取り対決、モンゴル語の勉強会、ゲーム大会など、たくさんさんの時間を一緒に過ごしました。

そして後日聞いた話では、一番印象に残ったのは雪遊び！雪だるまづくり、雪合戦、雪かき…。モンゴル



とは雪質が違うため、初めての体験だったそうです。積雪のため外出から急遽予定変更しましたが、喜んでもらえて安心でした。

衝撃的だったのは、お土産にいただいたモンゴル定番の飲み物（Zuv Aarts）が日本では



飲んだことのない味だったこと！一方サロールさんは味噌や納豆は苦手なようで、食の面でも交流ができて興味深かったです。

娘たちはサロールさんを姉のように慕い、別れ際にはまた会おうね！とハグする姿に胸が熱くなりました。

このような素敵な機会をいただけたことに感謝申し上げます。

イタリアの友だちと交流しよう！

市役所本庁舎 会議室 3月27日

イタリアのポッサーニョ市アルド・ファンティーナ小学校の生徒と一宮の小学生がオンラインで話し合う「イタリアの友だちと交流しよう！」が市役所で開催されました。

イタリア側は小学校5年生の1クラス約20名が、一宮側は小学3～6年生の生徒12名が、それぞれ2部に分かれて、日本時間で夕方4時から交流しました。最初に、あらかじめ教えてもらった互いの国の言葉で、「はじめまして。私の名前は〇〇です。よろしくお願いします」と挨拶をしました。その後国際交流員のキアラさんの通訳を介して、持ってきたものの紹介をしました。日本からは、スーパーマリオのアイロンビーズの作品や好きなキャラクターのついた文房具、中

には竹刀を持ってきた子もいました。イタリアの子どもたちからは日本の漫画やポケモンカード、ぬいぐるみなどが紹介されました。そのほか好きな食べ物を質問したら、「寿司」とイタリア側から出てきたり、イタリアの夏休みは6月から9月中旬までであると聞いて驚いていました。

参加した子どもたちからは、「イタリアの人も日本の漫画や食べ物を知っていてうれしかった」「イタリアの子たちが日本語をしゃべってびっくりした」などの感想が出ていて、イタリアの子どもとじかに話せて有意義な時間だったようです。（日野）



イタリア食文化クイズ②

イタリア人は1週間に何日パスタを食べる？

A: 2～3日 B: 毎日 C: 5～6日

(答えは裏表紙！)

2022年8月から国際交流員として頑張ってくれたキアラ・スカルデットさん。
7月末で任期を終えるため、お別れのメッセージをいただきました！

キアラさんお別れメッセージ

Ciao! 皆さん、来な
いとどこかで思ってい
たこのお別れの時が、
ついに来てしまいました。
この4年間、本当に
楽しい時間を過ごし、
たくさん笑い、そして
多くのことを学びまし
た。



来日した当初、1年ぶりに話す日本語はめち
やくちゃでした。今でも時々、皆さんに「え？」と
いう不思議そうな顔をされてしまいますが、そ
れでも少しは成長できたと思いたいのです。一宮
市の皆さんと出会ったり、仲良くなったり、お話
したり、そのすべてが、私にとってかけがえのな
い宝物です。

思い返せば、来
日した頃はまだコ
ロナ禍で、イベント
も少なく静かなス
タートでしたが、少
しずつ日常が戻り、
イタリア語講座や料理イベント、フレンドシップ
フェスティバルなど、さまざまな活動に挑戦する
ことができました。うまくいったこともあれば、そ
心の中でパニックになったこともあります。そ
の全部が大切な経験です。



こうした活動が形になったのは、決して私一
人の力ではありません。親善ボラン
ティアの皆さんの
温かい支えがあっ
たからこそ、ここ
まで歩んでくるこ
とができました。心から感謝しています。



数あるイベントの中でも、小学生とのオンラ
イン交流会は特別な時間でした。最初は絵手紙

だけのやりとりでしたが、「直接話したほうが、
きっともっと楽しい!」と思い立ち、オンライン
交流に挑戦しました。子どもたちの弾けるよう
な笑顔を見るたびに、「やってよかった」と何度
も胸が熱くなりました。

さて、この少し風
変わりなイタリア人
は一度帰国します
が、きっとまた戻っ
てきます。この4年
間で、一宮市は私に
とって第二のふる
さとなりました。
友人や知人、そして
皆さんと、またいつか一緒に過ごせたらこれ以
上の喜びはありません。



イタリアの有名な曲の一節に、こんな言葉が
あります。

「Certi amori non finiscono, fanno dei
giri immensi e poi ritornano.」

(ある愛は終わらない。遠回りをしてもまた戻っ
てくる。)

だから、これは「さようなら」ではなく、「またね」
です。

皆さん、4年間本当にありがとうございました。
Grazie di tutto!

Alina Scardito



イタリア食文化クイズ③

ティラミスが初めて作られたのはいつ?

A:1603年 B:1746年 C:1960年

(答えは裏表紙!)

おとなりさん

今回は一宮市在住の韓国人アン・ウジン(安佑鎮)さんを紹介し、自宅を訪問しての取材でしたが、約束の時間に何うと、部屋はきれいに片付けられていて、テーブルにはお茶とお菓子も用意されていました。アンさんのまじめでやさしい気遣いに感心させられました。

韓国の機械工学の大学を卒業後、コロナ前に1年ほど日本に滞在していましたが、いったん帰国して去年より再来日し、今は稲沢の機械治具設計・加工の会社の正社員として設計業務の仕事をしています。自宅アパートから会社までは自転車通勤、最近の自転車の交通ルール改定に少々戸惑いながら通勤をしているようです。ルールを守ろうと努力しているところも彼の誠実さが感じられました。

日本での生活は韓国に比べ穏やかで、皆親切で心地よく、毎日が充実していて楽しいと日本生活を満喫しているようです。

日本料理も気に入っていて、レシピを教わり自炊していて、納豆、あつあげ、ひじきの煮つけも自分でつくれるようになり、韓国の辛い味付

けは避けるようになったそうです。

一宮市国際交流協会の日本語ひろばで日本語を勉強していて、そのおかげで日本語能力試験N1に合格し、日本語ひろばのボランティアの方々にたいへん感謝していました。

趣味は多言語での語学交流、最近クラシックコンサートやミュージカル、美術館巡りなども始めたそうです。語学については、韓国語を教えるボランティアもしてみたいと、国際交流に興味があるようでした。

韓国を離れ外国で暮らすようになって、世界のことを考えるようになったとも言っていました。

今後は結婚して家族をつくり、ずっと日本で生活したいとの将来設計を考えているそうです。末永く日本での活躍をお祈りします。

(あんちゃん)



IIA information

IIAワールドスターフェスティバル ～イタリアンスタイル～

「第71回おりもの感謝祭 宮七まつり」の特設ステージにて、イタリアの音楽や踊りを披露します。

- ▼ 日 時 / 7月24日(金曜日)
午前11時20分～正午
- ▼ 場 所 / 尾張一宮駅前ビル(i-ビル)7F
シビックホール セタステージ
- ▼ 出演者 / アンジェロ・アクィリーニ
(アコーディオン奏者)



外国人向け無料日本語教室

【日本語を勉強したい人へ】
先に申込みはいりません。直接、教室に来てください。

大人向け 日本語ひろばいちのみや

- ▼ 日 時 / 毎週日曜日(第3日曜日を除く)
午前10時～正午
- ▼ 場 所 / 向山公民館

大人向け 日本語ひろばびさい

- ▼ 日 時 / 毎週日曜日(第1・5日曜日を除く)
午後2時～3時45分
- ▼ 場 所 / 三条つどの里

小中学生向け 日本語ひろばジュニア

- ▼ 日 時 / 毎週木曜日 午後6時～7時30分
毎週土曜日 午前10時～11時30分
- ▼ 場 所 / 神山公民館

日本語教室のボランティアも随時募集しています！
興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください。



地球あっちこっち



ドイツで出会った日常の驚き

よこで ゆうみ
横出 優実さん



▲滞在していたリューネブルクの街

わたし、だいがくよねんせい、とき、こうかん
私は大学四年生の時、交換留学生として一年間ドイツに滞在しました。人生で初めての海外生活ということもあり、日常のささやかな場面でも驚きや発見の連続でした。今回は、その中でも特に印象に残ったことを紹介したいと思います。

まず驚いたのは、食事文化です。私はドイツ北部の街に住んでいましたが、大学の食堂では常にヴィーガンメニューが用意されていました。逆に肉や魚の料理は一種類のみ、あるいは全く用意されていない日もありました。スーパーでもヴィーガン商品の種類は豊富で、日常的に目にしました。日本ではヴィーガン料理を目にする機会がほとんどなかったため、日常の食事としてこれほど自然に受け入れられていることに大きな驚きを感じました。同時に、環境問題や動物愛護といった考え方が、人々の生活の中に深く根付いていることも実感しました。

もう一つ印象的だったのはパンです。ドイツでは「パ

ン」と言えば、日本のような柔らかいパンではなく、ずっしりとしたハードパンが主流です。種類も非常に多く、地域によって名前や形も異なります。留学前にドイツ人の先生が「日本のパンはパンではない」と冗談まじりに言っていた意味が、少し分かった気がしました。

さらに興味深かったのはパーティー文化です。日本で「パーティー」と聞くと、少し格式張った華やかな場を想像する人も多いかもしれませんが、しかしドイツでは友人同士の気軽な集まりとして頻繁に開かれ、友達の友達へと招待が広がっていきます。人見知りな私にとって最初は緊張しましたが、皆とてもオープンでフレンドリーで、すぐに打ち解けることができました。



◀ハロウィンパーティー

授業の様子▶



▲大好物のシュニッツェル



▲ドイツのパン

一年間の留学生活では、新しい人々との出会い、そして異なる価値観との出会いの連続でした。ここで紹介した三つの出来事は、そのほんの一部に過ぎません。たいへんだと感じることもありましたが、振り返ると、その経験の一つひとつが今の自分を形づくっているように思います。

編集後記

旅先で星空観察をするのが好きです。大自然の中で星空を眺めると、不思議とふわっと心がほだけ、自分の中に少しでも余裕が生まれる気がします。紛争が起きている地域でも変わらず星は輝いているはず。世界中の人が安心して夜空を見上げることができるように星に願いを込めて。

(伏原)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-0858 一宮市栄3-1-2 尾張一宮駅前ビル3F 市民活動支援センター内)

一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。

みなさんも親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。

*この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。

ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/lia/】